

# 特許 AI×技術動向分析で 研究開発テーマを発掘する最前線

— 技術動向分析から R&D テーマを提案するツールの機能比較と企業活用事例 —

2026 年 4 月 5 日

Claude Opus 4.6

特許特化型 AI ツールは 2024～2026 年に劇的な進化を遂げ、数万件の特許を一括分析してホワイトスペースを自動検出し、R&D テーマを「提案」するレベルに到達した。旭化成やレゾナックなど先進企業は、AI による「発散（広く探索）→収束（絞り込み）」の二段階アプローチで技術開発テーマの探索効率を大幅に向上させている<sup>1,2</sup>。以下、「技術動向分析から R&D テーマを提案する」用途に実際に使えるツールを厳選し、具体的な活用事例とともに解説する。

## 1. Patentfield AIR — 日本発ツールの筆頭

2024 年 7 月にリリースされた Patentfield AIR（パテントフィールド社、京都）は、日本発ツールの中で技術動向分析とテーマ提案に最も特化した機能群を持つ<sup>3,4</sup>。最大の強みは、最大 1 万件の特許セットに対する一括生成 AI 分析である。検索母集団全体を GPT-4o 等の生成 AI に投入し、競合の技術開発戦略や出願トレンドをポートフォリオ単位で分析できる<sup>5</sup>。

具体的な機能として、特許集合からマインドマップを自動生成し技術の全体像と階層構造を直感的に把握できる「マインドマップ出力」、特許文書から特徴的なキーワードを抽出してトレンドの方向性を検出する「キーワード抽出」、そして用途×課題のマトリクスで特許をマッピングし、まだ誰も取り組んでいない空白領域（ホワイトスペース）を可視化する「用途・課題マッピング」がある<sup>5,6</sup>。この用途・課題マッピングは、「この課題に対してこの用途ではまだ特許が存在しない」という形で R&D テーマの候補を明示的に示してくれるため、テーマ提案に直結する。

2025 年 10 月にリリースされた「AI Summary Global」は、日米欧中韓台および WO の 8,000 万件の特許を日本語で要約し、用途・課題・解決手段・効果の 4 軸で構造化する<sup>7,8</sup>。海外特許も含めたグローバルな技術動向俯瞰が日本語環境で完結する点は、日本企業にとって大きな利点である。価格は Corp-XS プラン（5ID）で月額 3 万円～、AIR オプションは別途契約が必要。特許レビュー時間の 65%削減、業務全体で 80%の効率化を実現したとされる<sup>9,10</sup>。

## 2. PatSnap Eureka — エージェント型技術探索

グローバルツールの中で、R&D テーマ提案において最も先進的なのが PatSnap Eureka（シンガポール本社、日本オフィスあり）である。2025 年に大幅リニューアルし、単なる検索プラットフォームから専門 AI エージェント群へと進化した<sup>11</sup>。2 億 400 万件以上の特許と 20 億以上の構造化データポイントを基盤に、独自 LLM「PatsnapGPT」が RAG（検索拡張生成）と RAT（検索拡張思考）を組み合わせ高精度な分析を行う<sup>12,13</sup>。

テーマ発掘に直結する機能として、以下が際立つ。Eureka Scout は技術領域と企業の自律的スカウティングを行い、数百万件の特許・論文から技術トレンドを自動検出し、3D ランドスケープマップで「山」（特許集中領域）と「谷」（ホワイトスペース）を可視化する<sup>14,15</sup>。Find Solutions は根本原因分析（RCA）、TRIZ 手法、第一原理推論を組み合わせ、技術課題に対する解決策を既存特許から自動提案する。Idea Validation は研究者のアイデアに対し、特許データベースを照合してホワイトスペースの有無と既存権利との抵触可能性を即座に評価する<sup>16</sup>。Feasibility Analysis Assistant は技術的実現可能性と市場ポテンシャルの専門的評価を自動生成する<sup>17</sup>。

PatSnap は日本市場に積極展開しており、200 社以上の日本企業が導入済みとされる。2025 年には共同創業者が経済産業大臣賞を受賞した<sup>18</sup>。

## 3. Derwent・Orbit・PatentSight — グローバル大手の分析基盤

### 3.1 Derwent Patent Search（Clarivate）

Derwent の最大の武器は、850 名以上の専門家が人手で作成した DWPI (Derwent World Patents Index) である。6,700 万件以上の発明ファミリーに対し、技術的新規性を人間が要約・タグ付けしている点で、AI の出力精度が他ツールを上回る<sup>19,20</sup>。技術クラスタリング可視化ツール「ThemeScape」は K-means 法で特許を地形図のように描画し、特許密度の高い「山」と特許の少ない「谷」からホワイトスペースを直感的に特定できる<sup>21</sup>。2025 年 11 月には AI 搭載の「Patent Monitor」をリリースし、高リスク特許の自動優先付けと脅威分析を実現した<sup>22</sup>。

### 3.2 Questel Orbit Intelligence

Questel は 2025 年 10 月に業界初のクロスプラットフォーム AI アシスタント「Sophia」を投入した<sup>23</sup>。4 モジュール構成で、自然言語からブール検索式を自動生成する「Sophia Query」、AI チャットボットによる特許レビュー「Sophia Document」、セマンティック検索「Sophia Search」、AI 要約・特徴抽出「Sophia Lab」を備える。Orbit のランドスケープマップは 3D トポグラフィック表示で、特許クラスタの重なりやホワイトスペースを色分け表示でき、出願人別の技術領域比較が容易である<sup>24,25</sup>。

### 3.3 LexisNexis PatentSight+

PatentSight+ は特許の「価値評価」に特化したツールで、科学的に検証された Patent Asset Index™ (技術的関連性×市場カバレッジ=競争インパクト) で特許の質を定量化する<sup>26,27</sup>。2025 年 9 月に生成 AI アシスタント「Protégé™」を発表し、自然言語入力から構造化された視覚的回答を即座に生成する<sup>28</sup>。TechDiscovery 機能では、キーワードを数語入力するだけで AI が即座にパテントランドスケープの概要を生成し、特許の専門知識がない研究者でも新領域を探索できる<sup>29</sup>。全特許ファミリーを国連 SDGs 17 目標にマッピングしている点もユニークである<sup>27</sup>。

## 4. 旭化成に学ぶ「AI×IP ランドスケープ」の R&D テーマ発掘

日本企業における最先端の実践例は旭化成である。同社は知財部門を「知的財産部 (R&D 管

轄）」と「知財インテリジェンス室（CSO 管轄）」に分離し、後者を経営戦略直結の IP ランドスケープ（IPL）専門組織として 2015 年から運用している<sup>30,31</sup>。IP ランドスケープ推進協議会（33 社参加）の代表幹事も務め、日本の IPL 実践をリードする<sup>30</sup>。

特に注目すべきは、同社が自社開発した「用途探索支援 AI」である。これは二段階の AI パイプラインで構成される。第 1 段階の NLP-AI が膨大な特許文献から用途・材料・特徴を自動抽出し、第 2 段階の生成 AI（GPT-4o ベース）が類似用途をクラスタリングして「接着剤」「フィルム材料」「タイヤ材料」といった人間が理解できるラベルを付与する<sup>32,33</sup>。このシステムにより 6,000 件以上の用途候補を自動生成し、特定材料の候補選定時間を約 40%短縮した<sup>33</sup>。

同社はまた、パナソニック製 PatentSQUARE の「AI 自動分類オプション」を 10 年以上活用し、研究テーマごとに月間約 200 件の新規特許を自動分類して SDI（選択的情報配信）の効率化を実現している<sup>34</sup>。Microsoft 365 Copilot の導入で月間 2,157 時間の業務削減、AI 文書監査で年間 1,820 時間の削減も達成した<sup>1</sup>。

## 5. 「発散→収束」二段階アプローチの実践フレームワーク

### 5.1 発散フェーズ（広く探索する）

まず AI セマンティック検索で技術ドメインを検索式に縛られず広範に探索する。次に Patentfield AIR や PatSnap Eureka のクラスタリング機能で特許群をトピック別に自動分類し、用途マッピングで技術が適用される全市場・用途を網羅的に洗い出す。ランドスケープマップの「谷」や用途・課題マトリクスの空白セルからホワイトスペースを可視化し、AI 類似検索で異分野間の予想外の技術接点を発見する<sup>5,14</sup>。この段階のアウトプットは、数百～数千件の技術テーマ候補リストである。

### 5.2 収束フェーズ（絞り込む）

市場魅力度・競争ポジション・技術実現可能性・自社コア技術との整合性・FTO（実施自由度）の評価軸を設定し、AI 分類機能でテーマ候補をスコアリング・ランク付けする。有望テーマに

ついて競合の特許ポートフォリオ詳細分析と時系列トレンド分析を実施し、人間の専門家が AI 出力を検証・補正した上で、エビデンスに基づく R&D テーマ提案を経営層に提示する。最終アウトプットは 3~5 件の優先投資テーマと根拠資料である<sup>30,35</sup>。

レゾナック（旧昭和電工）は、Stockmark 社の「Anews」プラットフォームで特許・ニュース・論文を AI が横断分析し、研究テーマ探索とオープンイノベーション機会の特定を加速している<sup>36,37</sup>。生成 AI の社内展開で特許調査・文書作成時間を大幅に短縮した<sup>37</sup>。ソフトバンクは 2025 年 4 月に生成 AI を活用して 2 日間で 3,500 件以上の特許出願を実行するという極端な事例も報告されている<sup>38</sup>。

## 6. その他の日本発ツール

AI Samurai（2025 年にトヨタテクニカルディベロップメント子会社化）は IP ランドスケープ俯瞰図と知財戦略 MAP を持つが、主力は審査シミュレーションと明細書作成であり、テーマ提案には補助的な位置付けとなる<sup>39,40</sup>。Genzo AI（2026 年 4 月設立、島津製作所 90%出資）は特許業務の自動化に特化しており、技術動向分析機能は現時点では限定的である<sup>41,42</sup>。Summaria（パテント・インテグレーション社）は教師データ不要の自動技術分類が優秀だが、マクロなトレンド分析よりも個別特許の読解支援が本領である<sup>43</sup>。Tokkyo.Ai は自然言語での特許検索と AI エージェントによる「ディープエージェント方式」の調査を特徴とするが、ランドスケープ分析機能は発展途上である<sup>44</sup>。

## 7. ツール選定マトリクス

各ツールの技術動向分析・テーマ提案力を横断比較すると、用途によって最適解が異なる。

評価軸	Patentfield AIR	PatSnap Eureka	Derwent	Orbit	Patent Sight+	AI Samurai
大量特許の一括 AI 分析	◎	◎	○	○	○	△
ホワイトスペース検出	◎	◎	○	○	○	△

技術クラスタリング	◎	◎	◎	◎	◎	△
R&D テーマ自動提案	○	◎	△	△	○	△
日本語完全対応	◎	◎	○	○	△	◎
導入コスト	中	高	高	中～高	高	中
2025-26 年進化度	◎	◎	○	◎	○	○

## 8. 結論：AI が変える「テーマ探索」の本質

日本語環境でコストを抑えつつ技術動向分析を始めるなら、Patentfield AIR が最適解である。用途・課題マッピングによるホワイトスペース発見は、日本企業の R&D テーマ探索ワークフローに直結する<sup>5,6</sup>。グローバル規模で網羅的なスカウティングと TRIZ 連携による解決策提案まで求めるなら、PatSnap Eureka が最も包括的だが、投資額も大きい<sup>16,17</sup>。特許データの質と人間の専門知識による裏付けを重視するなら、DWPI を基盤とする Derwent Patent Search が信頼性で優る<sup>19</sup>。特許ポートフォリオの経済的価値評価からテーマの優先順位を決めたいなら、PatentSight+の Patent Asset Index<sup>TM</sup>が有効である<sup>26</sup>。

2025～2026年の最も重要なトレンドは、検索補助から「自律的な調査パートナー」への転換である。PatSnap Eureka の AI エージェント群や Tokkyo.Ai の「ディープエージェント方式」に見られるように、AI が自ら調査計画を立て、検索を実行し、戦略を修正し、レポートを作成する時代が始まっている<sup>11,44</sup>。

ただし、旭化成の事例が示す最も重要な教訓は、ツール以上に「仮説構築力」が成否を分けるという点である。経営課題から仮説を立て、特許データで検証するという「シナリオ構築能力」がなければ、どれほど高機能なツールも宝の持ち腐れとなる<sup>30,31</sup>。ツール導入と並行して、知財部門と研究開発部門・経営層の連携体制を構築し、IP ランドスケープの成果を意思決定に直結させる組織設計が不可欠である。特許庁が 2024 年に公開した「IP ランドスケープ実践ガイドブック」や INPIT の「IP ランドスケープマニュアル」は、こうした組織的取り組みの出発点として活用できる<sup>45,46</sup>。



## 参考文献

- [1] 旭化成「知的財産部門における生成 AI 活用に関する調査レポート」, yorozuipsc.com, 2025 年
- [2] 特許庁広報誌「とっきょ」Vol.49「新時代に挑む知財戦略 IP ランドスケープのススメ 旭化成株式会社」, jpo.go.jp, 2021 年 9 月
- [3] 総合報道「Patentfield AI 特許総合検索・分析プラットフォームに生成 AI を搭載した新オプションサービスを 7 月にリリース」, sogohodo.co.jp, 2024 年
- [4] Patentfield「生成 AI 調査・分析オプション Patentfield AIR を本日 7/1 リリース」, patentfield.com, 2024 年 7 月
- [5] Patentfield AIR 製品ページ「生成 AI 特許検索・調査・分析・査読」, product.patentfield.com/air
- [6] Patentfield AIR 機能調査まとめ, yorozuipsc.com
- [7] Patentfield「AI サマリー機能をリリース！グローバル特許にも対応した AI サマリーグローバルを 10/1 にリリース」, patentfield.com, 2025 年 10 月
- [8] VOIX「Patentfield が新機能『AI サマリーグローバル』を発表、特許の見える化を実現」, voix.jp, 2025 年
- [9] PR TIMES「[Patentfield] 生成 AI で 8000 万件の特許を「見える化」。AI サマリーグローバルを本日 10/1 にリリース」, prt看imes.jp, 2025 年 10 月
- [10] evort「Patentfield 株式会社 プレゼンテーション」, evort.jp
- [11] Patsnap Help Center「Welcome to the New Eureka: Your Guide to the Upgraded AI Agents Platform」, help.patsnap.com, 2025 年
- [12] Patsnap「AI Agents for IP & R&D Innovation Platform | Patsnap Eureka」, patsnap.com
- [13] Patsnap「Cut Patent Search Time from Weeks to Minutes with AI Analytics」, patsnap.com, 2025 年
- [14] R&D World「Hands-on with Patsnap's Eureka Scout: Strong features meet evolving AI backbone」, rdworldonline.com, 2025 年
- [15] Patent AI Lab「3 Best Patent Landscape Software 2026: AI White Space Analysis」, patentailab.com, 2026 年
- [16] Patsnap Help Center「Eureka R&D FAQs」, help.patsnap.com
- [17] Patsnap Eureka Blog「Patsnap Eureka Major Updates for Smarter R&D Decisions」, eureka.patsnap.com, 2026 年
- [18] PatSnap AI Agent 最新動向と日本市場での展開, yorozuipsc.com
- [19] WIPO Inspire「Derwent Patent Search」, inspire.wipo.int
- [20] Clarivate「Derwent Patent Intelligence Software for Search & Analytics」, clarivate.com
- [21] Patinformatics「Machine Learning in Patent Analytics - Part 3: Spatial Concept Maps for Exploring Large Domains」, patinformatics.com
- [22] PR Newswire「Clarivate Launches Derwent Patent Monitor to Enable Fast and Accurate Decision-making with AI」, prnewswire.com, 2025 年 11 月
- [23] Questel「Questel Launches New AI-Assisted Sophia Platform for IP」, questel.com, 2025 年
- [24] Questel「Orbit Intelligence - Patent Analytics & Search Software」, questel.com

- [25] Orbit Intelligence Help 「Understand and use a landscape map」, [intelligence.help.questel.com](https://intelligence.help.questel.com)
- [26] WIPO Inspire 「LexisNexis PatentSight+™」, [inspire.wipo.int](https://inspire.wipo.int)
- [27] LexisNexis IP 「Welcome to LexisNexis PatentSight+」, [lexisnexisip.com](https://lexisnexisip.com)
- [28] Artificial Lawyer 「LexisNexis Launches 'Protégé In PatentSight+」, [artificiallawyer.com](https://artificiallawyer.com), 2025 年 9 月
- [29] LexisNexis IP 「IP Analytics & Intelligence」, [lexisnexisip.com](https://lexisnexisip.com)
- [30] 特許庁広報誌「とっきょ」Vol.49 「旭化成株式会社 IP ランドスケープ実践事例」, [jpo.go.jp](https://jpo.go.jp), 2021 年
- [31] 日経ビジネス 「旭化成が注力する『知財の DX』、特許分析で競合他社の戦略を読み解く」, [nikkeibp.co.jp](https://nikkeibp.co.jp)
- [32] 日経クロステック 「旭化成が材料の用途候補を探す生成 AI、精度高める秘訣は前工程の自然言語処理 AI」, [xtech.nikkei.com](https://xtech.nikkei.com), 2025 年
- [33] IoT NEWS 「旭化成、生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承で活用開始」, [iotnews.jp](https://iotnews.jp), 2024 年
- [34] パナソニック 「導入事例 特許調査支援サービス PatentSQUARE」, [panasonic.com](https://panasonic.com)
- [35] 情報機構 「IP ランドスケープの進展と実践 企業取組事例」, [johokiko.co.jp](https://johokiko.co.jp), 2024 年
- [36] スtockマーク 「株式会社レゾナック、Anews を導入。幅広い事業領域の情報を素早くつかみ、研究テーマの検討が増加。」, [stockmark.co.jp](https://stockmark.co.jp), 2025 年
- [37] 日経クロステック 「レゾナックの生成 AI、グローバルでの特許網構築を加速へ」, [xtech.nikkei.com](https://xtech.nikkei.com)
- [38] PatentRevenue 「ソフトバンクにおける AI 活用義務化と知財戦略の特許分析」, [iprich.jp](https://iprich.jp)
- [39] AI Samurai 「AI 知財革新セミナー 新機能『拒絶理由通知応答 AI』初公開！」, [aisamurai.co.jp](https://aisamurai.co.jp), 2025 年
- [40] AI Samurai 「IP LANDSCAPE 特許検索 バージョンアップ」, [aisamurai.co.jp](https://aisamurai.co.jp), 2022 年
- [41] 島津製作所 「知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立」, [shimadzu.co.jp](https://shimadzu.co.jp), 2026 年
- [42] 薬事日報 「島津製作所 知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立」, [yakuji.co.jp](https://yakuji.co.jp), 2026 年
- [43] PR TIMES 「特許読解 AI アシスタント『サマリア』が第 37 回中小企業優秀新技術・新製品賞のソフトウェア部門『優良賞を受賞』」, [prtimes.jp](https://prtimes.jp)
- [44] Tokkyo.Ai 公式サイト, [tokkyo.ai](https://tokkyo.ai)
- [45] 特許庁 「経営戦略に資する IP ランドスケープ実践ガイドブック」, [jpo.go.jp](https://jpo.go.jp), 2024 年 4 月
- [46] INPIT 「IP ランドスケープマニュアル（約 200 件の中小企業支援事例に基づく）」, [inpit.go.jp](https://inpit.go.jp)

以上